議題は、「世界遺産を取り巻く周辺市町村の取り組み」についてであります。

講演会

一端を紹介しますと、富岡製糸場の可能性として・地元への経済効果（飲食、宿泊、お土産等）インフラ整備として（駐車場、食事施設、トイレ、案内板）等をあげ、絹産業遺産群や周辺の観光資源との連携と底上げ、物語作りが重要であるとの講演でありました。今後、当町においても、世界遺産荒船風穴を、取り込む中での観光開発、町づくりをすることにおいて参考となる講演会でありました。

町民の声

荒船風穴友の会　会長　小井土　文雄　様

「私たちの町には世界遺産があります。」

例えようのない誇らしさと次世代に引き継ぐ責任で身が引き締まる思いです。

「荒船風穴」が操業されていたのは、明治後半から昭和初期ですが、今また、世界遺産という新たな光が注がれ、世界規模でこの地域が注目を集める機会を得ました。

私たち「荒船風穴友の会」はこの地域の宝を「守り・活かし・伝える」ことを目的に設立され、先人が残した偉業を学び、次世代の子供たちへ継承していく責務を行政と歩調を共にする民間支援組織です。

『富岡製糸場と絹産業遺産群』の世界遺産登録は、長年生産が限られてきた「絹」を日本の技術革新により大量生産を可能にした産業遺産としての価値が認められたものです。産業遺産という性格上、見た目の派手さでは、他の世界遺産と比較すれば地味なものかもしれません。しかし、「絹」という素材を通じ世界の服飾文化、市民生活に大きな影響を及ぼしたことは明らかで、それらの価値を十分に有していることは、このたびのイコモス勧告、世界遺産登録が物語ります。

特に荒船風穴は、自然現象と一体となった文化財で、山間にあることが当然の史跡です。道路状況や見学条件は決して便利なものではありませんが、今から100年以上前の先人が、西上州の山間にありながら全国を相手にビジネスを展開し、風穴界の覇王として君臨した実績はゆるぎない事実です。

世界遺産登録はスタートで、今後が正念場です。

まずは、我々地域住民が歴史に目を向け、価値を認めるところから始めていきたいと思います。

編集室から

6月定例議会も、全員出席の中、審議、採決をしてまいりました。

年度末の専決処分と、雪害に伴う26年度予算の第1号の補正予算を審議しました。とどこおりなく可決を致しました。

この議会だよりですが、皆様方に届く頃は、憂鬱な梅雨も明け、暑さきびしい夏になっていると思います。暑い夏を乗り切るためにも、健康には十分ご留意され活躍されることを祈念いたします。

また、議会だよりは、出来るだけ見やすく、読んでいただける紙面作りを心掛けておりますが、お気づきの点等がございましたら、ぜひ、お知らせをお待ちしております。

広報発行特別委員会
委員長　永井正之
副委員長　千野榮治
委員　原　秀男
岩崎正春
髙瀬政信
佐藤勇二

しもにた議会だより
二〇一四年　夏号（第66号）
群馬県甘楽郡下仁田町大字下仁田六八二番地
発行／下仁田町議会議長　佐藤　公夫
編集／広報発行対策特別委員会
☎0274-82-2111　印刷／荒瀬印刷株式会社